

地域コーディネーターの 必要性と役割

認定NPO法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ
代表理事 牧野昌子

NPOクラブ紹介・・・組織の概要



市民が地域力、福祉力、市民力 チカラをあつめる、
つなぐ、広げる 市民主体の地域づくりを！

2000年10月 NPOクラブ設立総会

2001年2月 特定非営利活動法人認証

2017年2月 認定NPO法人の認証

- 会員：運営会員23名、賛同会員84名、寄付者21件
- 役員：13名 スタッフ：11名、ボランティアスタッフ：7名
- 事業収入：2,800万円程度（2019年予算）
- 市民活動支援基金「一歩くん基金」：2000年～2009年
9回助成実施：67団体に総額1,714万円助成
- 2012年公益財団法人ちばのWA地域づくり基金設立

NPOクラブ 事業内容



1. 相談事業・NPOの支援事業

- ・法人設立、会計、マネジメント相談
- ・NPO応援講座企画・運営、講師派遣
- ・NPO専門家相談ネットワーク(税理士、社労士、弁護士)と連携

2. 地域づくりのためのコーディネート事業

- ・NPOと企業、行政との連携、協働事業、アドバイザー派遣
- ・ちばNPO協議会事務局、NPO法人地域創造ネットワークちば事務局
- ・四街道市みんなで地域づくりセンター運営事業
- ・東日本大震災の被災者、避難者支援事業、浪江町復興支援員サポート事業
- ・多世代交流拠点「おおなみこなみ」運営事業(千葉市花見川区検見川町)
- ・とみさと市民活動サポートセンターまちづくりコーディネーター育成事業
- ・千葉南部災害支援センター設立(台風15号～)

3. 広報事業(情報発信と情報交換の「場」づくり)

- ・団体HP、ブログ、twitter、facebookページ活用
- ・ちばNPO情報館(CANPAN)運営



本日の3つのポイント

1. 地域づくりとは

2. 市民協働とは

3. コーディネーターの役割

1. 地域づくりとは

目的：持続可能なまちづくり



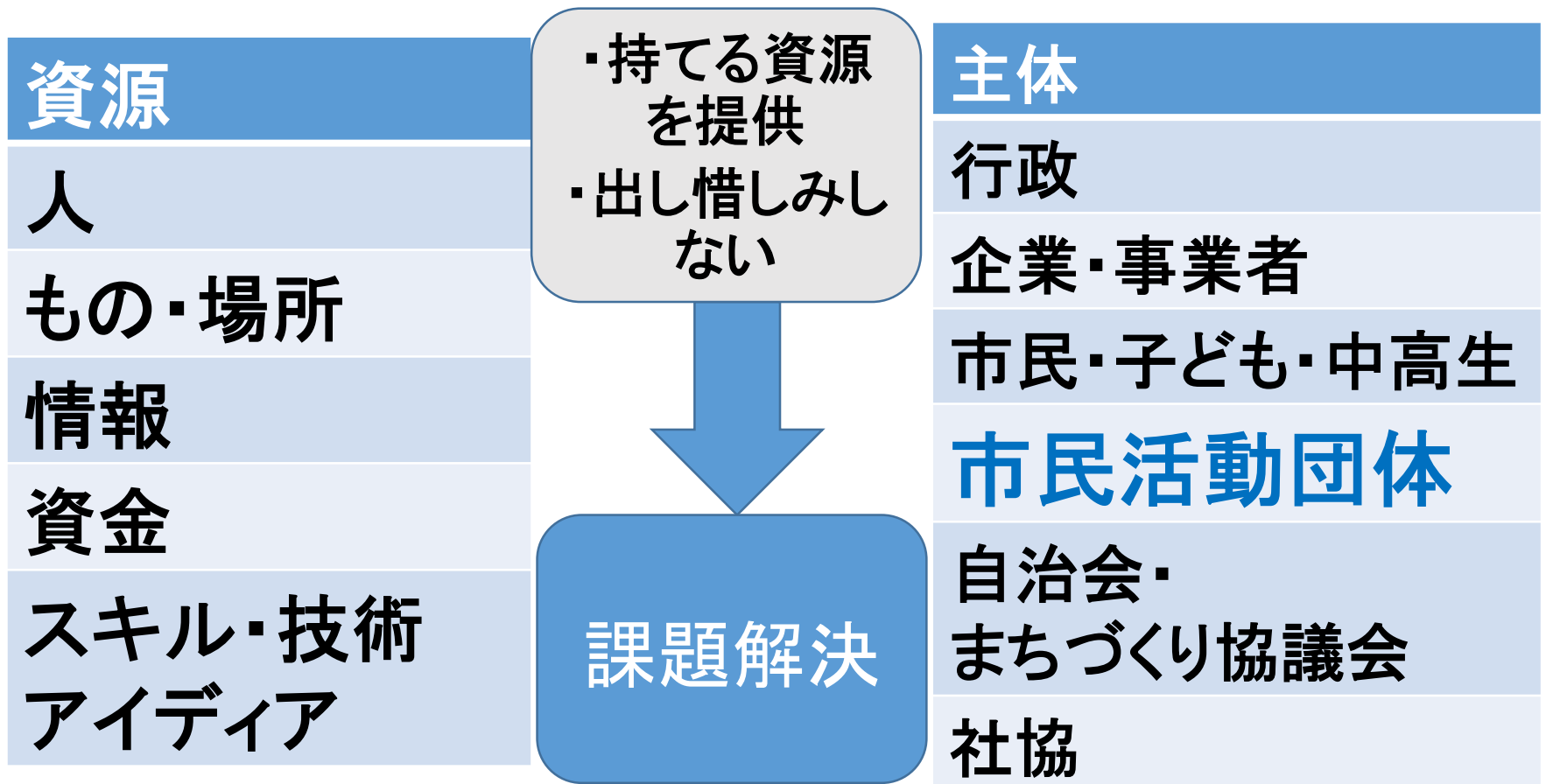
手法：協働によるまちづくり



地域の主体・地域の資源を活かす

2. 協働によるまちづくり

資源を持ち寄り、困りごとを解決



地域の主体・地域の資源を活かす

- **地域の主体**

市民、子ども・中高生、市民活動団体、事業者、企業、地縁組織、ボランティア 団体、PTA、シニアクラブ、サークルグループ、社協、〇〇〇、〇〇〇。

- **地域の資源**

人材(スキル、技術、アイデア)、資金、情報、歴史・文化、産業、自然環境

協働の意義

- 県内34市町で協働に関する条例、指針、計画を持つ。
「八街市協働のまちづくり条例、推進計画」H29～
社会課題、地域課題を解決するための手法として推進
- 目標を共有、対等な立場で課題解決のために資源を出し合い、補い合うことで目標達成するために協力する。
- まちづくりへの市民参加、市民の主体性を担保する。
- 市民の当事者性を活かし、より有効な解決策を創出する。

- これまでの行政と市民活動団体等の1対1の協働から協働のバリエーションが広がり、より課題解決を重視。
地域の主体と連携・ネットワークと協働
(市民活動団体・NPO、社協、自治会、学校、企業・事業者等)

新しい協働のカタチ

• コレクティブ・インパクト

- 異なるセクターにおける様々な主体(行政、企業、NPO、財団等)が、共通のゴールを掲げ、お互いの強み、ノウハウを出し合いながら社会課題の解決、大規模な社会変革を目指す取り組み(米国から)
- 全国コミュニティ財団協会が各地で取組みを進め、公益財団法人ちばのWA地域づくり基金「困難を抱える子どものセーフティネットづくりモデル事業」松戸市、関係団体と実施中。

• SIB(ソーシャルインパクトボンド)

- 社会的課題の解決と行政コストの削減を同時に目指す手法、民間資金で優れた社会事業を実施、事前に合意した成果が達成された場合に行政が投資家へ成功報酬を支払う。

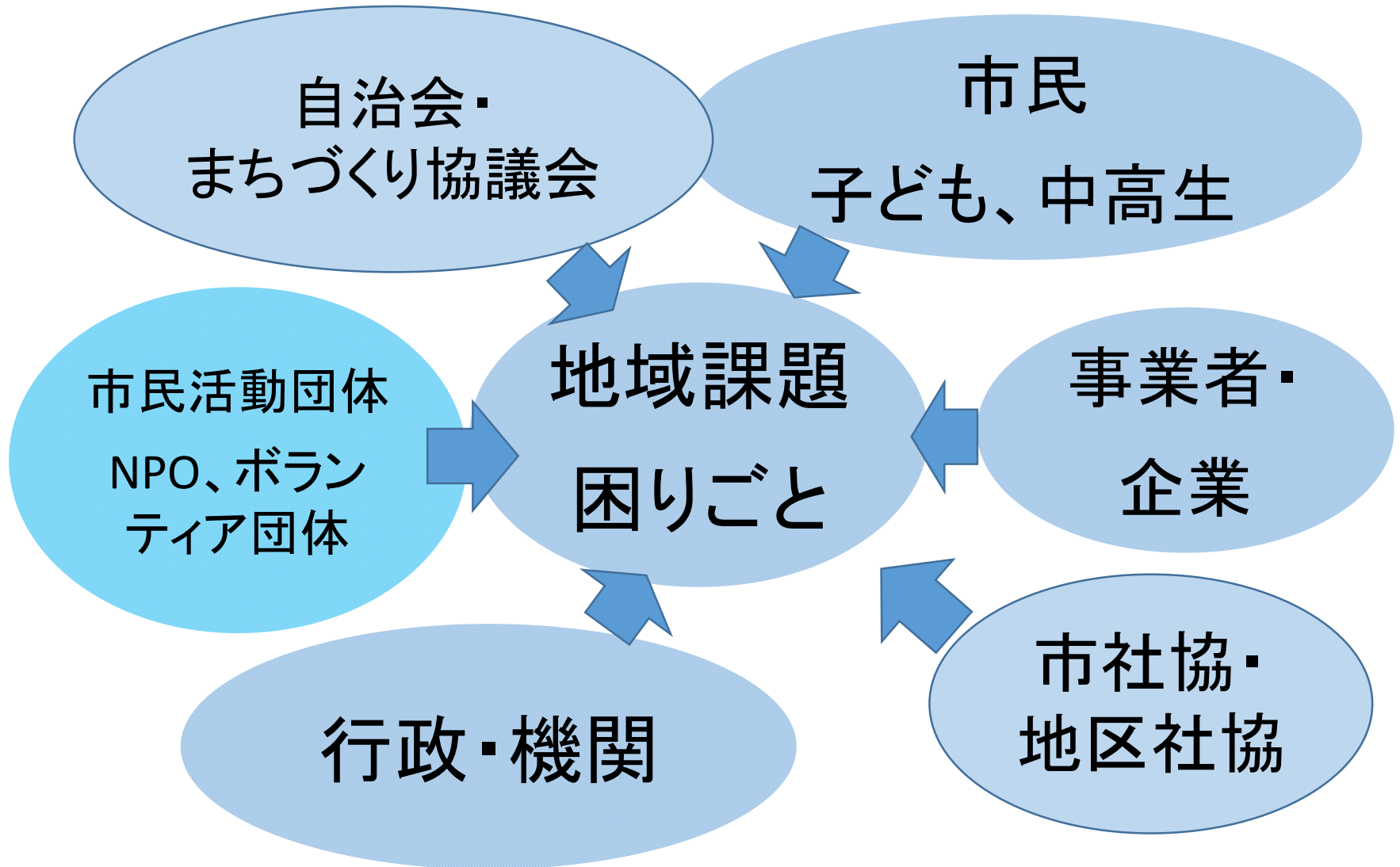
(英国で2010年から開発、導入、社会的投資モデル)

- 日本型SIB: 東近江市、京都市

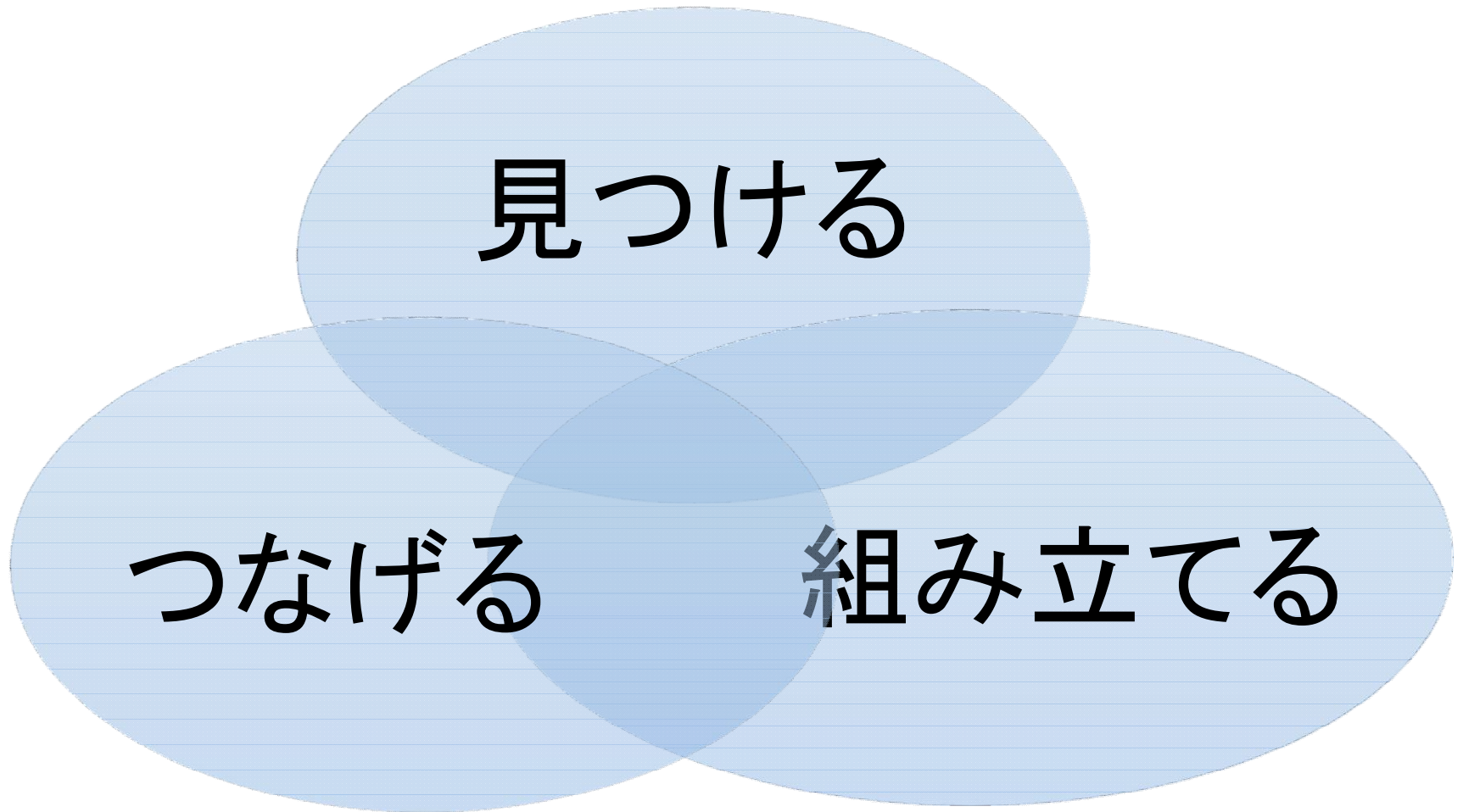
市民参加・協働の地域づくりの可能性

- 地域の課題を発掘、まずは、今ある資源を掘り起し、活用し、みがき続けることで解決を図る。
- 解決活動に「イイね」、共感を広げ、裾野を広げる。
- 当事者、市民の主体性を集め、市民参加をすすめる。
- 多様な人、多様な団体とつながり、解決資源(人・モノ、資金、情報)を集められる。
- **地域に新しい価値をつくることができる。**
豊かなコミュニティ、地域の魅力で愛着を持つ。

市民協働のカタチ



3. コーディネーターの役割



地域コーディネーターのタスク

人との出会い
の場を創出

人・主体同士
をつなぐ

資源の掘り起
こし

課題・ニーズ
の掘り起こし

担い手の人
材育成

人との出会いの場を創出

- 情報交換会、交流会、地域円卓会議、フォーラム
- 異業種、異分野、分野毎、地域毎、多世代、年代別

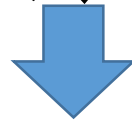


事例

- 地縁組織リーダー情報交換会
- 子ども支援団体(子ども食堂、プレーパーク、子供会、PTA)
- 居場所交流会(サロン活動団体、子ども食堂、こども文庫)
- 各種セミナーでの交流タイム、自己紹介タイムの確保
- 活動発表会(フェスタ、補助金報告会etc)

人・主体同士をつなぐ

- 相談対応(窓口、出前)(記録、検討)
- 情報の収集・提供(つなぐ先情報)
(行政・機関のしくみ、制度、地域活動団体)



事例

- 専門分野NPO・市民と市担当課
- 大学ゼミとNPO、自治会
- サロン活動団体と医療事業者(薬剤師、医師、看護師、理学療法士、栄養士)

資源の掘り起こし

人材、資金、もの、情報、技術、産業、歴史・文化、自然環境等、潜在的な資源を発掘、掘り起こすこと



事例

- 高校生の関心、得意分野を活かし、高校生レストラン
- 寄付つき商品の開発
- 森林セラピーの研修会場
- 映像技術を持つ市民と市PR動画制作
- 子ども食堂の場所の確保(居酒屋、レストラン)

課題・ニーズの掘り起こし

- ・しらべる＝数える、くらべる、たずねる
- ・確かめる



事例

- ・子ども食堂の必要性(どこに、どれだけ)
- 学区ごとの子ども人数、生活保護、児童扶養手当受給世帯数
- ・外国にルーツを持つ市民・子どものニーズ
- 住民の困りごと、学校での困りごとをヒアリング
(当事者や関係者)
- ・台風被災後、ヒアリング調査
(住民×民生委員、社会福祉士etc)

担い手の人材育成

- 地域の役に立ちたい、やりがいのある活動を始めたいに伝える
- 活動団体（仲間を増やしたい、活動を広げたい、資金調達）のニーズに対応
- コーディネーター自身の研修

事例



- リーダー研修
- マネジメント講座（広報、資金調達、会議運営、企画書・報告書作成）
- 先進事例の視察、講演会